

## 平成30年度愛知県がんセンター公開講座(第1回)のご案内

### 「胃がんをもっと知ろう」

= 平成30年5月19日(土)開催 =

< 講師からのメッセージ >

#### 「ヘリコバクターピロリ除菌療法と胃がん診断の現状」

胃がんは長年がん死亡原因の第1位に君臨し、我が国は世界で最も胃がんの多い国でした。胃がんの発症にヘリコバクターピロリ菌感染が深く関わっていることが明らかとなり、除菌療法や生活環境の改善とともにピロリ菌の感染率は減少し、近年胃がん死亡率は減少しています。しかし、2016年の死亡率で男性は第2位、女性は第5位と依然として高水準にあります。本講座では、ヘリコバクターピロリ菌の性質、除菌療法の方法と治療効果、そして最近診断される胃癌の特徴について解説したいと思います。

中央病院 内視鏡部 医長 田中 努

#### 「胃がんの外科治療」

世界で初めて胃がん切除手術が成功してから100年以上が過ぎていますが、手術は現在でもなお、胃がん治療の中心的な役割を果たしています。「胃がんの病変を過不足なく取る」という手術の基本は、今も昔も変わっていませんが、術前診断、胃がんの転移に関する理解が進むにつれて、早期胃がんに対する縮小手術・低侵襲手術から、高度進行胃癌に対する拡大手術まで、それぞれの患者さんに応じた適切な治療が選択されるようになってきています。胃がんの外科治療について、わかりやすくお話しします。

中央病院 手術部 部長 伊藤 誠二

#### 「胃切除後の食事について」

胃は、食べた物を貯めて消化し、少しずつ腸に送り出す働きをしています。胃の一部又は全部を切除するとその機能が失われるため、食べ方を工夫し、その機能を補う必要があります。

管理栄養士は、患者さんの今までの食生活を考慮しながら、退院前に個別で栄養指導を行っています。また、その後も食事に対して不安がある方には、継続的に栄養指導を行っています。

質問票を用いた症状別の栄養指導も始めましたので紹介します。

中央病院 栄養管理部 主任 嘉津山 瑞恵

### 「進行胃がんに対する化学療法の現状と展望」

進行胃がんに対する治療の中心は薬物療法です。近年、研究の進歩により従来の抗がん剤に加えて、分子標的治療薬（抗 HER2 抗体薬や抗 VEGFR2 抗体薬）や免疫チェックポイント阻害薬（抗 PD-1 抗体薬）の有効性が示され、実臨床でも実施可能となっています。免疫チェックポイント阻害剤は効果を認めた場合、長期に効果が持続するという従来の薬物にない特徴があり注目されています。

本講座では、進行胃がんの化学療法の現状と今後期待されている治療について解説したいと思います。

中央病院 薬物療法部 医長 門脇 重憲